11月9日（月曜日）「祈りの態度」

【新改訳 2017】

ルカ　19•9-14

「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりはパリサイ人で、もうひとりは取税人であった。‥‥‥あなたがたに言うが、この人（収税人）が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」（10-14 節）

　神が聞いてくださる祈りをするための心のあり方が、絵画的に描かれています。ポイントは 14 節のみことばでわかります。「だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

　このたとえでは、パリサイ人は自分を義人だと自任し、他の人を見下している人の姿であり、取税人は自分をひどい罪人として恐れをもって赦しとあわれみを求める人の姿です。パリサイ人は自分の立派さを数え上げて祈りましたが、取税人は遠く離れて立ち、胸をたたいて祈りました。

　祈りが聞かれたのはパリサイ人ではなく、取税人のほうだ

ったのです。へりくだった心の祈りこそ、主は聞き入れて祝福してくださるのです。

～祈り～

主よ。どうか、この取税人のように、自分を低くして、御前に祈る者としてください。そして、聞いていただける祈りをすることができますように。

【学びのために】

箴言 18•12•21•24 など参照。創世 4•1-7 のカインも反面教師として思い出されます。